

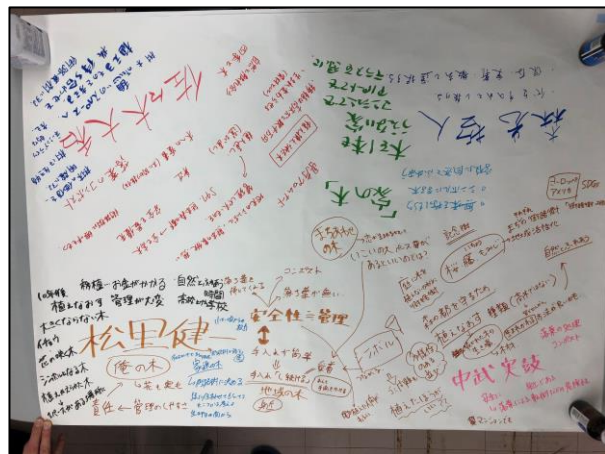
# 【報告】街路樹再生計画策定における庁内・市民ワークショップについて

## 第1回 市民ワークショップについて

- 日時・・・令和4年3月13日(日) 10:00~12:00
- 場所・・・桜の馬場城彩苑 多目的交流施設
- 講師
  - 熊本大学 田中尚人 准教授
  - 熊本県立大学 柴田 祐 教授
- 参加人数・・・26名(うち1名は高校生、20代が9名)
- 参加者は公募による市民と庁内ワークショップに参加した5名の若手職員

### 【ワークショップの内容】

- ①街路樹再生計画について事務局から説明
- ②自己紹介
- ③10年後の街路樹の風景がどうあって欲しいか？



### 【ワークショップの成果】

- 街路樹が抱える課題を市民と共有できた(安全・景観・維持費)
- 街路樹に関する様々なアイデア(特に利活用・公民連携・意識改革等)を得た

### 【参加者の主な感想】

- ✓ 多様な意見が聞けて良かった・勉強になった
- ✓ 若い人の考えが知れて良かった

意見の多様性を認め合った

## 市民のアイデアや意見

分類	アイデアや意見
整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伐採ではなく植替える ⇔ 伐採する場所、残す場所のメリハリ</li> <li>・【管理しやすい・シンボルツリー・記念樹・花の咲く木・・・】となる樹木へ植え替える</li> <li>・植え替える樹種は皆で(公募も有り)考える</li> <li>・植える場所(歩道幅が確保できる箇所・公園・広い地域など)</li> <li>・低木や花を増やす、公園を増やす、木や花の多い場所を作る</li> <li>・常緑高木+落葉高木を交互に植える</li> <li>・樹種の統一の美⇔違うものを植えてもいい</li> </ul>
利活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伐採後・抜かれた後の木の利活用:資材として生まれ変わらせる</li> <li>・落葉を財産にする・・・漢方、サプリメント、防虫剤、肥料などにできないか</li> <li>・アスレチック化・・・アプリで記録しランキング化</li> <li>・家庭菜園と連携する</li> <li>・チップとしてエネルギー源にする(リサイクル)</li> </ul>
公民連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落葉のコンポスト</li> <li>・ネーミングライツ・・・家族の名前を付け、管理を市民へ移譲</li> <li>・俺の木(マイ街路樹)・・・管理責任を持ち主に課す</li> <li>・木の使い道を公募する</li> <li>・地域コミュニティで管理する</li> </ul>
教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で街路樹を通じて自然と触れ合う時間を作る</li> <li>・小さいころからの教育が大切・・・街路樹を生き物と考えて教育</li> <li>・ラッパイチョウを名物にし、子供たちの遊び場にする</li> </ul>
イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然と触れ合う、四季を感じるように</li> <li>・待ち合わせ場所にする、待ち合わせの木</li> <li>・落葉掃除をイベント的にやる</li> <li>・菜園づくりとコラボ(食べる街路樹etc)</li> </ul>
意識改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味を持ってもらう、木への愛着・・・愛着があれば手入れし続ける</li> <li>・緑に住まわせてもらっているという意識</li> <li>・森から杜へ</li> <li>・植える正義からの脱却、道路の付属物からの脱却</li> <li>・マイナスイメージをプラスに位置付ける</li> <li>・アイデア会議などを開いて腹の中の〇〇を出し合う</li> <li>・木の嫌な部分と良い部分を認め合う</li> </ul>
意見要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹木は生き物</li> <li>・人が害を受けるからと言って切っていいのか？</li> <li>・ムクドリ糞で店に人が近づかない</li> <li>・木の姿を見る適した場所に</li> <li>・植えているところが狭い</li> <li>・そもそも街路樹は植えないといけないもの？</li> <li>・ボランティアに期待しすぎてはダメだが、期待できる部分もある(少しずつ)</li> <li>・市は市民がどこまでやって欲しいのかを示す必要がある</li> </ul>

- 市民が、街路樹に愛着を持ってもらう必要があり、そのための取り組みを今後検討していく